

福まちパワー・アップ事業

この事業は、単位町内会（以下「単町」）レベルでの日常的な見守り活動を推進することを目標にしています。昨年度は、すでに見守りが実施されている5単町の活動のノウハウを伝達し、未実施数町の参考にしてもらうための意見交換会を、地区福祉のまち推進センター（以下「福まち」）が主催して行われました。単町役員、福まち推進員、老人クラブ役員等を5つの地域ブロックに分けてお集まりいただき、先行単町の実践発表の後、グループ討議が行われました。討議は10人程度が1つの輪になつて行われ、「見守り活動の必要性」や「自身の単町で実践するための課題」に関して多くの意見が出されていました。

すでに見守り活動を開始している単町は、小学校新入生の減少や敬老お祝い金贈呈者の増加、単身世帯の方の地域行事参加の減少など、普段の町内会活動から、町内会の高齢化の実態と支え合い活動の必要性を痛感する中で、単町と福まち推進員が共同して活動がスタートしたところが多いようです。今年度は、さらに実施

单町が増加するよう、福
まちが中心となり、区役所
や区社会福祉協議会も協力
しながら、各单町と検討が
進められる予定です。

地域保健活動推進事業
(保健師活動の充実)

地区担当保健師は、平岡地区の乳幼児からご高齢の方までの地域の健康のパートナーですが、先行地区では2名の保健師（村上、梅村）→平成26年度から村上、野々田）が増員配置になりました。保健師による健康面に関する平岡地区分析では、「特定健診の受診率が高い」「より介護度の低い」要支援1の認定者が多い」「子育ての相談相手が多い」と感じている母が多いなどのデータが出ていて、これらの課題を解決するため、特定健診受診勧奨のため講話、健康度測定などのメニューを加えた介護予防事業などの健康づくりの働きかけや、子育てサロンを活用した保健師相談などを行っています。

さらに、保健師は、自ら相談行動を取るのが難しい方へは、家庭訪問によりご家庭に伺い相談・サービス

調整を行います。先行地区
指定以降、地域関係者の方々
へ保健師の活動を周知する
ことにより、民生委員・児
童委員さんなどから、「相
談機関につながつていない



健康度測定

ଶ୍ରୀମଦ୍ଭଗବତ

清田区社会福祉協議会

福まちとは

「同じ地域に住む者同士で、見守りあうシステムがあつたら、困りごとがあつても安心して生活できる」ことから、札幌市と社会福祉議会が協力して地域とともに平成7年から進めていき

平成2年 団体会員協議会の「福まちモデル活性化事業」の指定を受け、平岡地区福祉まち推進センター、「梅の実交流茶房」として町内会での見守り活動支援を開始。見守りの押し売りではなく、各単位町内会の現状（困りごと）把握のための懇談会やグループごと

組織としては、連合町内会単位で地区福まち推進センターを、単位町内会単位で福祉のまち推進委員会をつくり、見守りや支援を行うというものです。

平岡地区では清田区立の前年の平成8年に福祉のまち推進センターができましたが、高齢化率の低い同地区では見守りへの関心は必ずしも高いものではありませんでした。しかし、

ここ数年の「梅の実交流茶房」事業が目に見える形で成果を發揮し始めたのも平岡地区社会福祉協議会、平岡地区福祉のまち推進センターの関係者の皆様のご努力の賜物と心からに敬意を表します。

今後の課題



茶話会での歓談

開催され、行事実施報告や
計画予定の報告があります。
施設には優秀な人材の介護スタッフが配置されています。入居者のケアは至れり尽くせりで、誕生会、季節ごとにクリスマスのような様々な行事、音楽鑑賞や施設外での食事に出掛けたりの幸せな充実した日々を過ごしています。

入居者家族の話によれば、今では介護地獄のような生活から抜け出すことができ、双方ともに幸せな生活を過ごせるとの感想を語っています。

また、超高齢社会にある町内会としても、高齢者に対する福祉活動を推進する上で教えられることが多いです。非常に助かっています。

町内活動の重要な二つの事案として夏祭りと冬期道路確保を紹介

二つ目に、冬期間の円滑な生活道路交通の確保は、住民の通勤や通学、生活必需物資の確保などの日常生活や経済活動の維持、雪に起因する災害防止の観点から極めて重要な事案であります。

しかし、札幌市の生活道路の除雪基準は、雪の深さが10cmを超え、車両の走行に支障が発生すると予想される場合に道路除雪が行われます。路面から取り除いた新雪は人家連担(道路脇)に堆雪されるだけで、運搬雪は行われていませんので、交通に支障をきたしま

私は前会長が病気療養の為、本年7月より会長に就任致しました。前会長や役員の皆さんの助けを戴きながら、大役を何とか務めさせて頂いております。

当自治会は発足して今年で15年目になります。

全89戸で、そのうちの約3分の2が高齢者、身障者との世帯になります。役員構成が一年ずつの当番制となっているため、毎年入れ替わる事と、年々住民の高齢化に伴う人材不足が問題としてあります。

毎年春になると役員交代後、初仕事となる団地内清

「助力」の心

会長 上野 由美子

そこで、住民は自衛手段として、以前から生活道路の確保のために民間の排雪サービス業者を利用しています。その利用率が高まってきましたことから、四年前に町内会として排雪サービス利用料金の割引交渉した結果、今では排雪サービス業者の利用率が73・3%にもなっています。圧雪が緩んだザクザク路面に対しても、札幌市にお願いしては、札幌市においております。

掃があります。お元気ですか?との挨拶から、お互に体調を気遣い、親睦を深める機会があつたり、夏にはラジオ体操や花火大会も開催されます。しかし、近年お子さんの高学年化などで、どちらも参加者が減少しております。今後は皆さんのが参加しやすい行事や茶話会などを考える必要があると感じています。

一人暮らしの世帯も増加している中、当自治会ではここ数年火災訓練を行つてまいりました。

震災や災害が頻繁に報道されている昨今、危機管理

自主防災団も毎年結成されおり、避難・誘導・消火・給食給水・救出救護・防犯警備など班分けをしています。

実際に災害に遭遇した時に果たしてきちんと稼働できるのかと考えると、不安を抱えずにはいられません。この訓練をきっかけに、避難の仕方や誘導・情報の連絡のとり方など様々な対処を確認し合い、一人で避難する事が大変な方の把握もできるのではないかと思っています。

老人会がない当自治会にとって、日ごろのお隣りさん同士の声かけや気配りが非常に重要になってくるため、住民の皆さんの意識向上にも繋がつて欲しいと思いますし、全89戸の居住者全員の顔を知らない人が殆どなので、顔見知りになれ良い機会にもなつてほしいと考えています。

ゆくゆくは毎年開催する事ができるかどうか、今後の大きな課題です。

高齢者にも身障者にも優しく、住み良い団地……これが平岡三条団地自治会が心から願う、「助け愛」の精神です。



平岡第三町内会囲碁クラブは、毎週金曜日午後一時から、平岡わかば会館で行われています。現在は7名から8名の仲間で、まつたくの初心者からベテランまで囲碁を通して技術と心の交流を深め合っています。

発会のきっかけは、町内会の役員の集まりの中で退職後家にこもりがちにならず、何か趣味を通して仲間づくりができるのかと問い合わせた所、町内会の会員の中に、囲碁を習いたい、囲



碁を打ちたいという方がいらっしゃり、呼びかけたところ3名の方が集まつたのが始まり。



平岡第三町内会囲碁クラブは、毎週金曜日午後一時から、平岡わかば会館で行われています。

現在は7名から8名の仲間で、まつたくの初心者からベテランまで囲碁を通して技術と心の交流を深め合っています。

囲碁クラブ

平岡第三町内会

代表 勝 井

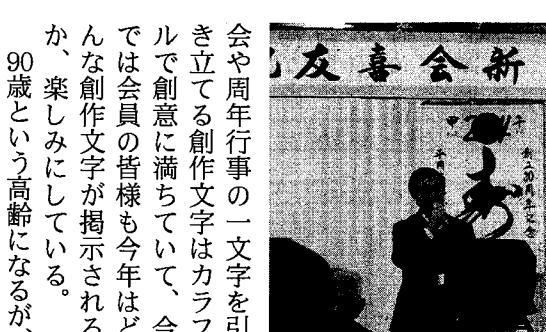
修

碁を打ちたいという方がいらっしゃり、呼びかけたところ3名の方が集まつたのが始まり。



大正14年生まれの甲田明（鶴風）さん。来年は満90歳。昭和12年、岩見沢の郵便局に勤務しながら書道仲間と書道クラブで書の道を究め、10年間で約250名の子どもたちに書を指導された。郵便局関連の展覧会にも数多く出展・入賞。昭和60年に現在の平岡北町内会の会計部長に就任して以来、町内会や老人クラブなどの行事の一文字や看板、会館内の諸表示一切を引き受け、筆一本で書いてきました。

特に、老人クラブの新年会や周年行事の一文字を引き立てる創作文字はカラフルで創意に満ちていて、今では会員の皆様も今年はどんな創作文字が掲示されるか、楽しみにしている。



90歳という高齢になるが、この創作文字を毎年どうか考へることと生きがいにしていきます。

幸い、近くに無料で場所と道具を提供していただけた『会館』があり、本当に囲碁の技術は一からのスタートでしたが、仲間内で教え合いながら毎週金曜日、午後のひと時を楽しみながら今日に至つています。

書の道・70年 創造の世界を楽しむ

平岡北町内会

甲田 明（鶴風）

写

広報紙「ひらおか」の最後のページは全て「みんなの広場」コーナーとしてひらおか地域にある文化活動（以前に活動したことのある・これから活動しようとするものを含む）をご紹介させて頂いてきました。

何人か集まって“何かやろうか”なんて始めた短歌・刺繡など、昔取ったきねづか的スポーツなど思い出すままを簡単な文章にし、写真・資料など添えて頂けたら申し分ありません。

今までの経験からすれば、”やっていることが未熟だから……”とか”狙っていることが、上手くいっていないから……”とか”といって遠慮しがちでしたが編集側から考えますと”この間近所の方と話したんですけど……”やつてみよう”結果がよければ一層良いのですが、よしんば思うような結果がでなくても、その途中にある目的や励まし合い・屈辱・などの様子などを読む人に感動と励みを与えてくれると思うのです。

こうした情報が、平岡の文化活動への強い刺激になると考えていました。

ひ
ら
お
か